

学修者本位の大学とは どんな大学？

学生に
聞く！



学修者が主体的に学べる大学像を、当の学生本人たちはどのように思い描いているのか。学生目線で大学をよりよくする活動に取り組み4人の学生が、理想の大学づくりのためにできることについてオンライン上で語り合った。

大学のつくり手は、教職員だけではない。一緒に大学づくりを担いたいと考える学生が、あなたの大学にもいるはずだ。

入学前の期待と入学後の実際のギャップは？

奥村 教員志望で、自身を成長させる学びや挑戦に期待して、関西大学の文学部に入学しました。でも、当時、私の周りから聞こえてきたのは「楽単はどの科目？」「熱心にノートを取るなんて、意識高いね」といった言葉でした。悶々と過ごしていたところ、3回生のときに、*1ある先生との出会いがきっかけで、成長するための学びについて考え始めたのです。ようやく思い描いていた大学生になったという実感が得られました。

中川 手に職を付けるべく、北海道医療大学の薬学部に進学。国家資格取得に向けた学生のがんばり

に、先生方は期待通り覚えてくれています。ちょっと残念だったのは、コロナ禍で他学科生との多職種連携教育の機会が減ってしまっただけで、他の学生との交流など大學生らしいこともしてみたくて、学生キャンパス副学長に立候補し、活動を始めました。

清野 指定校での進学を考えていたこともあり、高2の頃から各大学のシラバスを読み込み珍らしい生徒でした(笑)。成城大学経済学部入学後は、期待していた多彩な分野の科目を履修するとともに、シラバスの知識を生かせるピアサポーター活動に参加。コロナ禍での入構制限の中でもZoomやSNSでピアサポーター活動を続け、オンライン授業のサポートもしました。

田中 日本大学で海洋生物資源科学を学んでいます。近隣に海や水族館などがあり、恵まれた環境です。ただ、微生物から水環境まで学問の幅が想像以上に広がって専門分野を絞り切れず、研究室選びにはとても苦労しました(笑)。キャンパスが広大で、専門も細かく分かれているので、同じ学部内でも他の学生との交流も難しく…。学生FDの活動に加わったのは、他分野の学生との交流を求めたとい

具体的な活動内容について教えてください。

中川 学生キャンパス副学長の主な任務は、学内外からの委託事業活動と、学生イベントの企画実行です。今年、コロナ禍で開催できていなかった新入生歓迎会や球技大会を復活させました。資格の勉強で忙しい毎日ですが、学生同士が交流を深め、純粹に楽しむことも必要だと考え、各学部の学生キャンパス副学長と協力して取り組んでいます。薬物乱用防止キャンペーンなど、学外団体から依頼を受けて実施した企画もあります。施設や授業についての意見を学生からアンケートで募り、要望を学長にプレゼンしたりもしています。


奥村 学生が大学にもっと深く関わり、自分たちの成長のために、自分たちでもっと何かできないかと考え、同級生4人で*2MOCAというユニットを結成し学生と大学をつなぐ活動をしています。学生アンケートなどで声を上げて

も、大学側の認識との差がまだあると感じています。そこで、ある科目の全15回の授業を観察したうえで、受講生にヒアリングをし、学生にとって「よりよい授業」という観点でまとめたレポートを学内で発表し、大学の広報誌でも取り上げてもらいました。

清野 大学と学生側のギャップは確かにあります。例えば、「入学式から履修登録までの期間が短すぎる問題」。手厚い履修登録マニュアルはあるものの、複雑な制度にとまどい、短い期間で時間割を決められない新入生が多いのです。実際、全学部の履修の手引をそろえ、自他共に認める「成城ウィキペディア」(笑)である自分には、多くの学生からSNSで相談が寄せられます。そこで、われわれピアサポーターが、学生目線での時間割相談会を企画、実施し、今年度は1000人もの新入生が参加しました。この活動の中で、履修に関する問題点を見つけたため、学長先生や教務課の職員さんに報告、相談しているところです。今後、カリキュラムの一部変更にも

意見を聞かれるだけの存在ではなく 当事者として大学教育に携わりたい

田中 花奈 たなか かな
日本大学 生物資源科学部
海洋生物資源科学科3年



【活動】学生FD CHAmMIT (チャミット)
教員・職員・学生が日本大学の教育について理解を深めるとともに、和気あいあいとした雰囲気の中で語り合い、教育改善をめざす活動。毎年、各学部に向けて「学部提案書」を提出。提案書を基に、学部教職員と学生が協議を行い、大学は「学生への回答書」を作成。改善活動が行われる。
【支援部署】FD推進センター

中川 明音 なかがわ あかね
北海道医療大学
薬学部薬学科3年



【活動】学生キャンパス副学長 (SCP: Student Campus President)
各学部より1人、選挙により選出。1人につき活動費30万円とプレザーを支給。学内イベントの企画・運営、授業や学校施設に関する学生アンケートの実施、学生代表としての学内諸会議への参加などを通して、よりよい大学づくりに取り組む。
【支援部署】学務部 学生支援課

奥村 百香 おくむら ももか
関西大学
文学部総合人文学科卒業生
(現在京都大学大学院修士課程1年)



【活動】関大生の学びと成長加速プラットフォーム
大学の教育改善、学生同士のつながり、自身の成長を目的とする、学生の自主的なユニット活動。所属ユニット「MOCA」は、授業観察や学生インタビューを基に、レポート「学生にとって「よりよい」授業に必要な5つの要素」を発行。卒業後もアドバイザースタッフとして関わる。
【支援部署】教育開発支援センター「内部保証を支えるIR/IEプロジェクト」

清野 敬人 きよの けいと
成城大学
経済学部経済学科3年



【活動】ピアサポーター
教職協働による学びのコミュニティづくりをめざし大学が導入した「ピアチューター制度」内で活動する。他の学生に学習アドバイスやサポートを行う。サポート内容は、履修登録やレポート作成に関する講座の開講や相談の受け付け、新入生イベントの企画・実施、授業内での支援など。
【支援部署】ピアチューター運営WG(各部署の部長職で構成)

*2 [Meet On Creative Academy]
*3 [Chat]と[Summit]を組み合わせた造語

*1 関西大学山田剛史教授。P.26参照

取材・文 / 編集部、見山雄介

大学に「完成」はない。教職員と学生が 絶えずつくり続けていくものではない

らはこれを受けて、学生への回答書が出されます。実際に改善につながるかと、やっぱり達成感がありますね。一方で、学生にとっては重要でも、対応されない案件もあります。その場合は、実現可能性が高い改善策を考え、再度提案したりもします。このような、着眼点を決めて課題を整理し解決策を



アンケートだけでなく、直接、対話したほうが、望む大学に近づきそう

考える一連の作業は、日頃の授業の中でも役立っていますね。

—学修者本位の教育に向け、大学への提案は？

奥村 私たちがレポートにまとめた学生にとっての*よい授業とは、「心理的安全性が保証されている」「先生と学生、学生同士のコミュニケーションがある」等、学生にとつてはごく当たり前のこととす。一方で、先生方からは、「学生が自分の授業にノってこない」「学生からの反応がない。やる気がないのか」「学生の意見の聞き方がわからない」といったお悩みを伺っており、学生と先生の間でギャップがあることを実感しました。そういったお悩みに対する私たちなりの答えをレポート内にQA方式でまとめました。学生がどう感じ、何を考えているかを、積極的に大学や先生に伝えることが大事だと思います。

田中 日大では、学部長に直接学生の意見が届く「目安箱」があります。誰にどうやって伝えれば検討してもらえるのか、学生の声を

大学に届けるルートがあるとすることは重要です。

奥村 同感です。私たちも初めての教育改善活動で手探りでしたが、理解ある先生つてに学内に広げたり、執行部の先生方に届けてもらったりしています。

清野 自分の場合、SNSに学生のフォロワーが多く、みんなの声が集まってくるので、先生方から「学生はどう思っているのか」を何度となく聞かれています。1人の声ではなく、みんなの声なんだとわかってもらえると、より真剣に聞いてくれるかもしれ

中川 薬学部は国家資格取得という先生と学生の共通の目標があるため、授業面においては意見を受け入れてもらいやすい環境です。「ここがわかりにくかった」という声を上げると、すぐに補講が設けられたり、次の授業で資料を追加してくれたり。皆さんの話を聞いて、うちの大学はせっかく先生と話しやすい関係を築けているのだから、より学びやすい環境づくりに、もっとわれわれ学生が関わっていききたいと思いました。何といっても薬学部は6年も通うので(笑)。あと、学生アンケート



学生のための大学とは、学生の意欲を
フットワークでできる大学

に答える形だけでなく、学生と大学が直接話し合える場があったほうが、お互いの誤解も少なく、要望の実現にもつながりやすそうです。

田中 資格系の学部でなくても、DPやシラバスでゴールが提示されているのだから、それを学生も先生もしっかりと共有できれば、同じ目標に向かう者同士、信頼関係が強まるかな。同じ目標があると、意見を言いやすくなるし、聞き入れてもらいやすくなりそうです。

奥村 学生と教育を一緒につくり

学生はお客様ではなく、対立するものでもない。大学づくりの担い手



ていく」という言葉にハッとしました。大学は完成されたものではなく、常に手を加えて改善し続けていくもの。教職員だけではなく、学生もその担い手であってほしいと思います。みんなで築いていった結果、各大学の個性が際立つようになれば、日本の大学がもっと活気づきそうですよね。今日私たちがお互いの活動を知り、自分の大学に生かすヒントをもらえたように、いろいろな大学を訪問して、学生同士をつなげる活動をしてみたいになりました。

学生、教員、職員が理想の
大学像を突き合わせる
機会があつてもいい



上げている大学は、日本ではまだまだあまり見られません。その分、研究のしがいがあると考え、私は大学院に進学しました。学修者本位の大学をつくるには、まず、どんな学生がいて、どんな学びなら成長するのか、実態を知り、議論することが大切ではないでしょうか。学生は何かを「してあげる」お客様でもなく、大学と対立する存在でもない。学生も大学の一部であり、当事者だという認識に立ち、学生が大学の当事者になるためには何が必要なのかを探ってみたい。当事者意識を持って主体

的に活動する姿勢は、卒業後の社会でも大いに役立つはず。

—学生の教育への参画を促すには？

中川 学生が教育に参画するしくみがある大学は、まずその制度を学生に知ってもらうことが必要ではないでしょうか。私は、たまたま先輩がキャンパス副学長の選挙活動をしているのを見て、制度があることに気づきました。コロナ禍で活動も制限されていたので、気づかないままの学生もいたはず

清野 同感です。必修授業で制度を紹介したり、キャリアセンターにパンフを置いたり、認知を広める工夫の余地はあります。学生の相談を受けていて感じるのは、大学に聞きたいことややりたいことがあつても、どこに言いに行けばいいのかわからない学生が多いということ。学生課と教務課の違いがわからない学生も大勢います。気軽に相談できる、わかりやすい窓口が必要です。

田中 学生FDでは、参加者の学生や教職員がお茶を飲みながら対等に大学について話すルールを設けた「しゃべり場」を開催しています。参加の場づくり、参加してもらいやすい環境づくりも大切に

奥村 この記事を学生向けにも発信してはいかがでしょうか。自分の大学の制度を知る、知らない以前に、「学生が大学の教育活動に参画する」という発想すら持つことがない人も多いと思います。こんなやり方もあるということを、私たち学生の立場からも、もっと広めていきたいですね。

清野 大学はさまざまな経験を通じて、社会に出るまでに自分の価値観を築くところ。学修者本位の大学とは、学生がやりたいことを尊重してフットワークでできる大学だと思っています。もちろんかなえられない希望もあるだろうけど、聞きつ放しではなく、実現できない理由を説明してもらえると、大学への信頼感が高まります。

田中 学生、教員、職員がそれぞれの立ち位置から、どんな大学をつかっていきたいかを発信して、それを基にみんなで話し合える文化ができると、新しい大学像が見えてくるかもしれないと思います。新しい日大をつくっていくうえで、皆さんとの今回の出会いがとっても刺激になりました。

奥村 田中さんの「大学をつくっ

*4 P.27参照。詳細は、「関大生の学びと成長加速プラットフォーム」にて公開 http://yamatuyo.com/images/student/moca_report_full.pdf